

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレイション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット1		
所在地	杵築市大字溝井1609		
自己評価作成日	平成26年9月16日	評価結果市町村受理日	平成27年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様は、高齢化・重症化しており活発な活動は難しくなっていますが、穏やかに安心して暮らせるよう入居者様と職員が寄り添い、ご家族様のご理解とご協力をいただきながら、それぞれが持ち続けている「力」を発揮していただけるよう一人一人を大切にされたケアを心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

一人ひとりが穏やかに安心して安全に暮らせるよう、寄り添うケアを実践している。家族とのかわりを大切にし、月1回普段の様子を手紙で知らせている。運営推進会議では生活状況を写真や映像で報告するなど工夫している。また、柿の木を見て「干し柿をする頃だ」との利用者の言葉で、一緒に皮むきをして軒先に吊るすなど、本人の思いを大切にされた柔軟な対応している。事業所と医療機関の連携がとれており、終末期のケアが行われている。重度化し外出が難しい方には広い外庭で散歩をするなど五感に働きかける工夫をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初音の里全体の理念に沿ってグループホーム独自の理念を掲げている 異動や新人の職員にはその都度説明を行い統一した意識付けを行っている	わかりやすい理念を全職員でつくり、玄関、ホール、業務日誌に貼っており、意識づけされている。日々の業務の中で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の美化活動への参加、避難訓練、夏祭りを開催する際に地域の方に呼びかけ協力を得ながら行っている	地域の清掃活動に参加したり、防災訓練や夏祭りは商店街と協賛で行うことが恒例になっている。今年の夏祭りは150名の地域からの参加協力があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行っている 夏祭りへの参加を呼びかけ認知症の方へ接する機会を持っていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催 市の担当者、区长、民生委員、家族、入居者の出席により現状報告を行い、意見、要望をいただき検討、改善している 議事録は配布している	運営推進委員会を2か月に1回開催しており、市の担当者、地域の代表者、家族会、利用者の出席があり、出された意見要望を検討しケアの向上に努めている。写真、ビデオを映像化し、現状報告を行い、詳細に記録した議事録を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	個別のケースや困難事例について随時相談助言を受けている 認定調査、ケア会議時情報を伝え、意見をいただいている	困難事例は地域包括支援センターに相談し助言を受けている。市の担当者には、ケア会議で情報を伝え、個別に相談し対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、申し送り等を通して共通認識を図り、安全面を考慮して自由に過ごせるよう取り組んでいる	ミーティングや申し送りを記録に残し、共通認識を図っている。センサーマットは本人、家族の了解のもと利用するなど安全面に配慮している。	

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送り等を通して虐待につながるようなことがないか検証し、些細なことでも見逃さない様職員間で注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員へ制度について説明をしている ご家族の相談を受けることもある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定について重要事項説明書を持って説明している ご家族の疑問や不安には丁寧に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月の請求書と一緒に手紙を同封し施設での様子をお知らせしている 来訪時や2か月に1回の家族会で意見、要望を聞き、改善すべき点は改善している	来訪時や運営推進委員会で家族の意見、要望を伺い、検討し運営に反映している。その結果を議事録に記録し、家族に配布している。また毎月請求書と一緒に現状報告の文書を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、代表者、管理者、事務長、職員が出席し事業に関する全体会議が開かれている 具体的に事例をあげて話し合いの場を設けている	週1回の管理者と職員、月1回の代表者、管理者、事務長、職員の全体会議で、現状報告をして意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により資格給が付くようになっているがやりがいに結びつく水準にはなっていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は、職員の経験年数等に応じた研修に参加している 施設内研修は、教育委員会が計画し実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設との相互訪問、勉強会への参加などを通して意見交換を行いサービスの向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の姿勢、本人に安心を与えられるような姿勢で話を聞くよう心がけている 気持ちを伝えられない方は、日々の様子観察をし支援に活かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の今までの生活習慣などの情報、ご家族が不安に思っている事等を聞き支援に活かしている 必要時には電話で情報交換をすることもある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より情報、意向を伺いながら職員で話し合い必要な支援を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活リズムを大切にし作業や会話の時間を作っている 学ぶ事も多く相談し合える関係づくりをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し共に本人を支えていく関係づくりをしている 行事参加の声掛けも積極的に行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加する事によって、家族、親類、友人とのつながりが途切れないよう努めている	花見、おせったい、夏祭りなど地域の行事に参加し、家族や知人との交流につなげている。また施設行事の案内を出し来訪を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の気持ちを大切にしながらお互いが支え合えるような関係を築けるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の情報等ご家族が必要とすれば提供している 亡くなられた方には夏に開催される供養祭りの案内を出している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言葉にできる方には、希望に沿うように、意思決定の困難な方には今までの生活や現在の状況から思い、希望を汲み取り検討している	コミュニケーションを密にとりながら一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者から敷地内の柿を見て干し柿にしたいとの希望があり、一緒に作りホールから見るところに吊るしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より聞き取りを実施し記録する 本人と会話しその中から情報を集め把握する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の訴えを大切に、動きや会話から現状を把握し、ケース記録、介護記録、申し送り簿等に記載している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて本人、家族の意向を元に検討し現状に即した介護計画書を作成し毎月チェックし3か月毎に評価している	利用者、家族、職員の意見をもとに実行可能な介護計画書が作成されており、実践、モニタリングを行い、3か月毎に評価・見直しの計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者のファイルに日々の状況を記録し情報を共有している 随時ミーティング、カンファレンスを開催し介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じ臨機応変に対応する柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、区長と家族を交え意見交換を行っている。施設周辺の地域の方に行事を通して交流を働きかけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医による定期的な往診が行われている。体調不良時には家族、主治医との連絡調整により適切に対応している	利用者、家族の希望するかかりつけ医による2週間に1回の往診が行われている。必要時には主治医、家族と相談して、他の医療機関を受診できるよう連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と常時連携の取れる状態にある。入居者の状態を報告、相談し体調管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を提供している。家族、医師、看護師と回復状況について情報交換を行い退院支援へ結び付けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人家族と話し合いを行い重度化、終末期へに向けた方針を確認しながらケアに取り組んでいる。状態の変化、重度化時には再度確認をしている	入所時に重度化、終末期へに向けた施設の指針を説明している。状態の変化、重度化時に再度確認し文書に残している。事業所と医療機関との連携ができており、終末期のケアの取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対処方法は日常業務の中でカンファレンスを行い確認しあっている。またAED、救命救急法等を消防署の協力を得て学習、訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全衛生委員会が中心となり消防署の協力を得て年2回避難訓練を入居者、地域の方々と一緒に行っている。地域の協力体制については運営推進会議を通して協力を呼び掛けている	消防署の協力のもと年2回避難訓練をしている。運営推進委員会で呼びかけ区長、地域住民6名の参加がある。夜間を想定した集合訓練や緊急連絡網の確認を行っている。水と食料の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には名字で声かけし失礼のないよう敬語を使い支援を行っている。愛称で呼ぶ場合、本人、ご家族に了解を得ている	一人ひとりを尊重し名字で呼び、わかりやすく丁寧な声掛けをしている。またトイレ誘導や入浴時は無理強いせず、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表せる方には声かけし話を聞いている。希望を表せない方には非言語的コミュニケーションの活用や寄り添いケアに努め、意思表示のサインに気付くよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態を把握し、一人ひとりに声かけ、会話し希望を聞き、出来る限り希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室担当を配置し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。朝の整髪、髭剃りを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会が中心となり一人ひとりの嗜好調査を行っている。食器洗いなど出来ることは職員と一緒にしている。検食が提供され職員も食材、味の確認が出来る	嗜好調査を行い献立に活かしている。後片付けや食器洗い、おやつ作りなどできることを職員と一緒にしている。また職員が交代で検食し、意見感想を献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎食、毎飲後記録。月一回体重測定を行っている。摂取量の少ない方には好みを聞き、おにぎりにしたりゼリー状にするなど工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがい、義歯洗浄の声かけを行い、出来る方には自分で行ってもらい見守り支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけることにより個々の排泄パターンを把握。定時に声かけをするようにしている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄誘導をするなど自立に向けて支援している。入居時にリハビリパンツ使用だった人が、日中は布パンツに変わっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄困難3日目より医師の指示に従い状況によっては薬服用。また朝食後にできるだけ便器に座ってもらい時間をかけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を計画。季節や体調により変更。希望や汚染があれば入浴できる。1日3名ゆくりと入れるようにしている	1日3名ゆくり入浴を楽しめるように工夫している。週3回入浴している人もおり、状態、状況または、希望によって毎日入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態によって午睡をとっている。生活リズムを大切に夜眠れない方には飲み物を用意したり会話をし寄り添うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに綴じている情報をいつでも確認できる。変更時は申し送りや医師連絡帳で確認し状態の変化は記録し報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーを変える、テーブルを拭く、コップを洗う、洗濯物をたたむ等、能力に合った支援を行っている。また季節の行事に参加していただき気分転換等の支援を行っている		



事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花見、おせったい、空港見学、夏は冷たいデザートを食べに出かけたりしている。外庭への散歩を個別に行い外の空気に触れるよう支援している	月1回はドライブを予定し、一人ひとりの要望を伺い行き先を決めている。重度化された方は日光浴をしたり、外庭を散歩したりして五感に働きかける支援を個別にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より小口現金を預かり事務所で管理している。外出した際は自分で支払いができる方にはお金を渡している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に、必要性を考慮し電話でのやり取りをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁面づくりを行っている。行事の写真飾り、季節の流れを感じられるよう工夫している	共用空間には季節感漂う壁面づくりがされており、行事や普段のこやかなスナップ写真が飾られている。窓の外には利用者と職員が一緒に作った干し柿が吊るされ季節が感じられる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士での居場所づくりを行っている。また好きな場所でくつろげるようソファを配置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活に必要なものを持ち込んでもらい使用している。本人や家族の写真を飾っている	ソファや家具を自宅から持ち込み一人ひとりに合った落ち着いた居室づくりがされている。家族の写真や作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりに合わせトイレ、居室に目印をつけ混乱なく生活できるよう配慮している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4474000234		
法人名	株式会社木村コーポレイション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット2		
所在地	杵築市大字溝井1609		
自己評価作成日	平成26年9月16日	評価結果市町村受理日	平成27年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にはここで安全に楽しく暮らせるように支援し、ご家族様には安心して生活できるような介護を実践する為、各種研修会に参加したり、施設内で勉強会を実施して質の向上に努めています。専門的な知識と技術を持ち寄り添うことのできる介護を実践しています。自施設の納涼祭にも全員参加できるように体調管理に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【初音の里ユニット1】と同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初音の里全体の理念を基本にグループホーム独自の理念を作り、業務日誌及びホール内に理念を掲示し、意識向上につながるよう日々努力している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交通安全の啓発活動、施設周辺の美化活動に参加している 防災訓練、夏祭りに参加を呼びかけ、協力してもらっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練時地域の方が来られた時、認知症について理解を深めていただくように話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、写真等を使い日々の生活状況の報告、ヒヤリハット、事故報告、研修報告を行い参加者から意見をいただいている 改善点や要望については、検討し後日報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入ってもらい意見交換している 認定更新の機会や地域ケア会議の場で協力関係の構築に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施している 安全対策を講じる際は、拘束になっていないか検討し実施している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、法律の内容について理解を深め、不適切なケアが行われていないか意識して行動できるよう注意している		

事業者名:グループホーム初音の里ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、内容を理解し必要に応じて活用できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書に目を通してもらいながら説明している 疑問点などあれば何時でも聞いてほしい旨伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度運営推進会議の時やご家族面会時などに意見や要望などを聞くよう心がけている 伺った内容は事業所内で検討し実現できるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議、週1回責任者会議を開催し、各部署ごとの意見や個人の意見などを社長、施設長、事務長などが把握できるようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態は木村コーポレーションで管理されている 職場環境の整備に向け、意見などあれば伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて認知症介護実践者研修を始めとして勉強会や研修会に参加できるよう積極的に勤めている 資格取得を推奨している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	杵築市内グループホーム連絡協議会、大分県小規模介護ネットワークに参加している 意見交換会や職員交流の中でレベルアップを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人から日々の様子や困っていることはないかよく聞き、ご家族からも話を聞き思いを受け止め安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との会話の中から、不安や要望などを理解し、信頼関係をつくれるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が何を要望しているのか把握してカンファレンスを行い、先ずは何か必要なのか優先順位をつけそれに沿った計画を立てるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の持ち続けている力を借りながら、グループホームにいる人たちと一緒に過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用料請求時に職員手書きの手紙を同封し日々の様子や必要な物品など伝えている 面会時には本人の困りごとなどの相談をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親せきの訪問があればその機会を大切に、又訪問していただけるよう声かけしている 外出や季節行事で馴染みの場所に出かけられるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもったり、ホールで孤立することのないように声かけし多数参加できるレクを催し交流の場を設けている トラブルが起きない様職員が仲介している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、電話や手紙で様子を伺っている 困ったことがあれば相談にのることを伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々声かけやコミュニケーションを心がけ本人の希望や趣味などを把握し個別ケアに努めている 把握の困難な方はご家族の意向を参考にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に細かい聞き取りをし、入居者のこれまでの生活習慣、生活環境を尊重し支援の参考にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でよく観察し個々の情報を記録し現状の把握に努めている 主治医より情報提供を受けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺い、担当者会議で職員から提案されたことがらを反映し、現状に即した介護計画書を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、介護記録、水分摂取、排尿チェック表を元に情報を共有している 状態に変化のあった場合は早めの対応を心がけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能を活用し、できる限りニーズに応じた支援ができるように他部署に意見やアイデアを求めることもしている		

事業者名:グループホーム初音の里ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや運動会に出かけたりお店に行くことによって地域の一員であることを確認している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれに主治医がり、定期的に往診を受けている 必要時には主治医、ご家族と相談し他の医療機関を受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる点や気付いたことは施設看護師に報告相談している 24時間医療機関と連携できるようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護看護添書を記入し本人の状態を伝えている 定期的にお見舞いに行き様子を聞いている ご家族様が対応できない時は職員が対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重篤化した場合の施設としての指針を説明している ご本人、ご家族の意向を尊重した上で、主治医看護職と相談し全職員で支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会への参加、施設内での研修会に参加し意識の向上につなげている ミーティング時に急変時対応について話し合い確認をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方達の協力を得て、入居者も参加し一緒に避難訓練を実施している 夜間を想定した集合訓練や緊急連絡網の確認を定期的実施している 飲料や食料の備蓄をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し親しみやすい話し方やわかりやすく丁寧な声かけを心がけている 入居者のプライドを傷つけないよう配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いや希望を遠慮なく言えたり、無理強いないで自己決定のできる環境づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、体調や気持ちに配慮し、臨機応変に対応できるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を入居者と一緒に選んだり、ご家族に相談したりしている 毎日の整容は声掛けなどで心配りしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けの際は彩に気を付けたり、食べやすい大きさに切ったりしている 職員も同じ物を食べ栄養士に感想等伝えて できる方には片付け等手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎回記録している 一人一人に合った摂取の仕方をご家族や栄養士と相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎食後一人一人に応じた口腔ケアの支援をしている		



事業者名:グループホーム初音の里ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しトイレで排泄できる方は、誘導している 入居者の状態に応じて綿パンツ、リハビリパンツなど使い分けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士により食材が工夫されている 水分補給や運動、入浴時の腹部マッサージなどで便秘対策を行っている 排便状況は、排泄チェック表で確認している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の体調に合わせて柔軟に対応している 肌の状態により入浴の必要性のある方には説明し、毎日入浴してもらうこともある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせて散歩や運動、休息のバランスを取るよう心がけている 定期的にシーツ交換を行い、室温に注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を読み理解するようにしている 服薬の確認は担当を決め行っている 症状の変化に注意し、記録を行い主治医へ報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当者会議を行い、日常の中でできることは何かを話し合っている 家事を手伝ってもらったり、外に出ることの好きな方には散歩に誘ったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先での日光浴、施設周辺の散策等行っている 重度化により集団での外出は難しくなっているが、受診や外泊時ご家族と外出している 入居所がいる		

事業者名:グループホーム初音の里ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より小口現金を預かり事務所で管理している 外出した際には自分で支払いの出来る方にはお金を渡している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時には必要性を考慮し電話でのやり取りをしている 贈り物が届いた際は、本人様が直接電話で話ができる様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面づくりや行事などの写真を飾り、施設の中においても季節を感じられるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で区切りはないが、気の合った入居者が一緒に過ごせるよう座席の位置など気を配っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する上で必要な物を持ち込んでもらい使用している 本人やご家族の写真を飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人に合わせトイレ、居室に目印を付け、混乱なく生活できるよう配慮している 移動できる方には自由に動いてもらっている		